

## 令和7年度 第2回長野県長野高等学校学校評議員懇談会 記録

1. 日 時 令和8年 2月 19日 (木) 15:30～17:00

2. 会 場 長野県長野高等学校 大会議室

3. 出席者

学校評議員6名(五十音順)

押鐘 真弓 氏(長野市PTA連合会副会長)

佐野 忠文 氏(上松区 区長)

竜野 泰一 氏(株式会社エーシーエ設計 代表取締役)

中村 正行 氏(信州大学教育・学生支援機構・信州大学学術研究院工学系 特任教授)

吉江 志濃 氏(臨床心理士・スクールカウンセラー)

鷺澤 幸一 氏(炭平コーポレーション代表取締役)

学校職員13名 生徒代表1名(生徒会長)

4. 学校評議員懇談会

(1) 開会(15:30～)

(2) 学校長挨拶(15:30～)

- ・本日はご多忙の中、ご来校いただき感謝申し上げます。本校着任後の3年間の変化について3点お話しする。
- ・生徒の海外への関心が非常に高まっている。米国研修、シンガポール研修等の参加希望者の増加やフランス、カナダへの長期留学生在が本年度は3名いるということからも明らかである。
- ・保護者の学校への関心が高まっている。各学年 PTA への参加率は3年前の60%台から、今年はいずれの学年でも8割を超えた。また、PTA 総会や学年PTA、学校行事への参加者数も増加している。
- ・第1通学区以外の学区から入学してくる生徒数が増加している。今年の1年生では、20人を超える生徒が、第1通学区以外の地域から通学しており、新幹線通学をしている生徒も増加している。

(3) 自己紹介(高校職員のみ)

(4) 全日制の状況について(15:35～)

① 全日制の概況:(全日制教頭)

- ・ 1、2年生は現在、定期考査の最中である。3年生は国公立大学の前期選抜が始まる。
- ・ 2年生は、昨年11月に台湾研修旅行で異文化に触れる貴重な体験をして、12月には台湾の高校生が本校へ視察に訪れ、親交を深めた。1月には、1学年が志賀高原でスキー・スノーボード教室を実施した。素晴らしい天候に恵まれ、充実した時間を過ごすことができた。
- ・ 12月の2学年の課題研究発表会では、ルシフェリン・ルシフェラーゼ反応について研究した「ホテルの力」が本校の最優秀賞に選ばれた。他にも社会課題に深く切り込んだ発表も多く、生徒の探究心の高さが感じられた。
- ・ 班活動では、スキー、スケートがインターハイに出場し、バドミントン班は県3位となるなど運動系クラブの活躍とともに美術班が全国高等学校総合文化祭に出場するなど文化系の班活動も活発である。
- ・ インフルエンザの流行があったが、学級閉鎖をするとともに、オンライン授業の配信を行い、学びを止めない工夫を行った。

#### ② 進路学習支援係より：(進路学習支援係)

- ・ 進路研究会は、前年度の生徒の進路に係る総括を職員全体で行い、進路検討会は、生徒の様々な取り組み状況を踏まえた各学年ごとに行う検討会である。
- ・ 本校独自の進路に係る事業が展開され、極めて手厚い指導体制となっている。その分、担任の負担も大きく、係としても負担軽減につながる工夫を検討している。
- ・ 今年の3年生は、共通テストの結果に関わらず、安全志向が強い。また、後期特編授業への参加者も多く、真面目で前向きである。

#### ③ 生徒指導係より：(生徒指導係)

- ・ 本年度の自転車による交通事故は、12月末までに29件が報告され、年間を通じて発生している。昨年の2.6倍と増加傾向にある。
- ・ 心の健康相談は、昨年度とほぼ同じ傾向が見られ、カウンセリングを通して安定した学校生活を送れるようになった生徒も多い。
- ・ 保健室の来室者の約37.5%は、精神的な悩みや課題を抱えている生徒である。

#### ④ 生徒会係より：(生徒会係)

- ・ 生徒会行事は天候にも恵まれ、すべて例年通りに実施できた。
- ・ 最大行事の金鵝祭では、来校者数が5,000人を超え、入場券アプリを利用して導入して、待ち時間の短縮を図ることができた。
- ・ 昨年9月の会長選挙により新生徒会長が決定し、現在、新体制での活動が活発に行われている。

⑤ NGP係より：(NGP係)

- ・NGP(ガバ・グローバル・プロジェクト)は、SGH事業終了後、基本的な事業(課題研究と国際交流)を継続して行う探究活動である。毎週月曜日の6時限目に設定し、全職員が担当して1～3学年の学校全体で実施している。1年生はテーマごとにグループ単位で、2年生は個人で探究活動に取組み、3年生は選択となっており、探究をさらに深めたいと考える生徒が熱心に取り組んでいる。
- ・本年度は、課題研究を選択した3年生が19名に増加し、探究活動が活発化している。海外研修で気づいた社会的な課題に深く切り込んだ質の高い発表も見られ、大いに盛り上がった。
- ・本年度初めて実施したNGPカフェは、本校OBに自身が活躍している現場を語ってもらう座談会の形式をとり、本校の先輩ということもあり大いに盛り上がった。

【質疑・応答】

○評議員・心の健康相談と相談室の違いは何か。

(生徒指導)⇒・心の健康相談は生徒の悩みをドクターに対応していただき、相談室ではS・Cに対応していただいている。

○評議員・相談室の表中の職員とはどのような意味か。

(生徒指導)⇒・生徒とS・Cを繋げる役目の職員をさす。

○評議員・海外研修における生徒の経済的な負担はおよそどのくらいか。また、希望する生徒が増加しているというが、参加人数に制限はあるのか。

(NGP係)⇒・シンガポール研修では約40万、米国研修では約70万、台湾研修は約20万ほど。参加人数に制限があるので、1年生の夏休み明けにアナウンスして、その後、人数調整を行う。

○評議員・自転車事故で大きな怪我には繋がらなかったという報告があったが、それはヘルメットの着用が要因か。

(生徒指導)⇒・本校生徒のヘルメット着用率は高く、軽微な怪我で済んだ一つの要因と考えられる。

⑥ 3学年より：(3学年主任)

- ・コロナが明けて、海外研修等を含めて様々な活動が可能になった学年で、生徒たちは充実した学校生活を送れたと思う。
- ・大学受験では、今年からWeb形式の出願となり心配していたが、特に大きな問題もなく、生徒たちは前期試験に向けて頑張っている。

⑦ 2 学年より：(2 学年主任)

- ・生徒全員が揃って進級できる。安定した学校生活を送っている。
- ・生徒 3 名が長期の海外留学にチャレンジしており、学年全体的に向上心が高く、コミュニケーション力も高い。
- ・昨年 9 月の生徒会長選挙では、3 名の生徒が立候補して長野高校らしい雰囲気であった。
- ・昨年 10 月～12 月にかけて、様々な行事、取り組みが山積し、とても忙しい日々であったが、生徒諸君はよく頑張った。

⑧ 1 学年より：(1 学年主任)

- ・入学して半年が過ぎ、2 年時の文理選択を含めて進路を考える時期となっている。
- ・米国研修では、37 名募集のところ 50 名を超える生徒が希望し、意欲の高さがうかがえる。
- ・スキー・スノーボード教室では、天候にも恵まれ、体調不良者も無く終了することができた。

(5) 定時制の状況について：(定時制教頭)

- ・義務教育段階で不登校を経験している生徒が多いため、職員間で生徒情報の共有に努め、SC や SSW や外部機関との連携を活用しながら、全職員で個々の生徒の指導に生かしている。
- ・社会性を伸ばす行事をできるだけ多く取り入れるよう工夫している。特に、総合的な探究の時間(1・2 学年)の授業で、“Edible Garden”という菜園をつくり、全生徒、職員で調理して食する収穫祭を実施し、とても評判が良い。

(6) 学校評価について：(全日制教頭)、(定時制教頭)

- ・全日制、定時制について中間および年度末最終評価をお願いしたい。(各議員に依頼)

(7) 学校生活について：(生徒会長)

- ・生徒会長選で掲げた公約を実行すべく、現在、新体制で活動している。
- ・生徒会では、一年間に行われる各クラス対抗の行事について、年間の最優秀賞を授与することを検討している。
- ・生徒は皆、充実した学校生活を送っている。

【質疑・応答】

○評議員・生徒会で企画する一年間のイベントには何があるのか。また生徒大会は年何回行われるのか。

(生徒会長) ⇒ ・4 月の応援練習を始め、新入生歓迎音楽会、駅伝大会、クラスマッチ、金鵒

祭、そして生徒大会などがある。生徒大会は年間、4回行う。

○評議員・生徒会として班活動や学習活動を支援している活動はあるのか。

(生徒会長) ⇒ ・班員募集の管理、金鷄祭での班対抗の種目の企画など。学習面では、生徒会主催の取り組みは特にない。班活動の中で先輩から教えてもらうことはあると思う。

○評議員・自分が入学したころと比べ、今の一年生の生徒会への関心、積極性はどのようになっているか。

(生徒会長) ⇒ ・生徒会要望アンケートなどを見ると、熱意は感じている。

○評議員・毎年、生徒会幹部のメンバーが変わるが、どんな色の生徒会にしたいか。

(生徒会長) ⇒ ・行事を中心に大切にandraえ、学校全体を団結した雰囲気になりたい

#### (8) 意見交換

○評議員・高校に入学し、初めて自転車通学を経験する生徒もいるので、PTAとして自転車の安全教室等を実施するなどの安全教育の推進や強化された罰則規定の周知徹底を図りたい。

○評議員・上松区として運動会等で長野高校には大変お世話になっている。近年、不審者等による事件が多発しており、区として防犯に力を入れている。警察と連携しながら40人体制で防犯パトロールを行っている。

○評議員・親の負担は大きいですが、海外研修は生徒が外に広く目を向けるという意味で大変すばらしい取り組みであると感じた。

・入学して半年後に文理選択を決定するのはとても厳しい。将来、就きたいと思う職業の情報提供も重要だと感じた。

○評議員・近年、班活動に参加する生徒数が激減したり、指導する教員の負担が大きいと言われているが、長野高校では外部指導者はどのような状況か。

(学校長) ⇒ ・義務教育の現場では、部活動を外部指導者に任せている状況が徐々に進んでいるが、高校現場ではこれから。本校では、指導を外部のOBなどにサポートしてもらい班はあるが、基本的に教員が指導している。

○評議員・S・Cとして5年ほど高校現場でお世話になったが、ドクターが生徒の悩みに対応してくれる高校は長野高校のみ。小学生でもうつ病を発症するケースもあるので、医師の診断はとても重要である。

・進学校では特に失敗しても大丈夫という指導が重要だと思う。

○評議員・海外研修プログラムはとても良い取り組みである。目を外に向けて、日本の東大、京大だけでなくハーバード大学やMITなどの海外の大学を目指すような生徒が現れることを期待する。

- ・デジタル教科書やギガスクール等、学校現場でデジタル化が進んでいるが、海外では廃止の方向へ進む国も出ている。デジタル教育の検証も重要だと思う。
- ・勉強以外にも、これは県一番と言えるものを作ってほしい。

(9) 校長より御礼の言葉

- ・現在の長野高校は、教員同士の忌憚のない意見交換により発展している。また、各学年7クラスの生徒が切磋琢磨し成長している。この勢いを保つ努力が必要だと感じている。本日は貴重なご意見をありがとうございました。

(10) 閉会 (17:00)